

# 景気観測(LOBO)

《2020. 10~12月》

令和2年度 第3四半期

日立商工会議所  
情報化委員会

## I. 調査概要について

### (1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7、10、1、4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

### (2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製造業	25	23	92.0%
小売業	30	21	70.0%
建設業	20	17	85.0%
サービス業	25	19	76.0%
計	100	80	80.0%

### (3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項 売上高の推移と変化要因 採算・仕入単価・従業員の変化状況 ※H31年度より項目に販売単価を追加
調査方法	FAX・Eメール活用

### (4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしょNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

#### ◎ LOBOとは

「CCI (Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称です。

#### ◎ DI値(景気判断指数)について

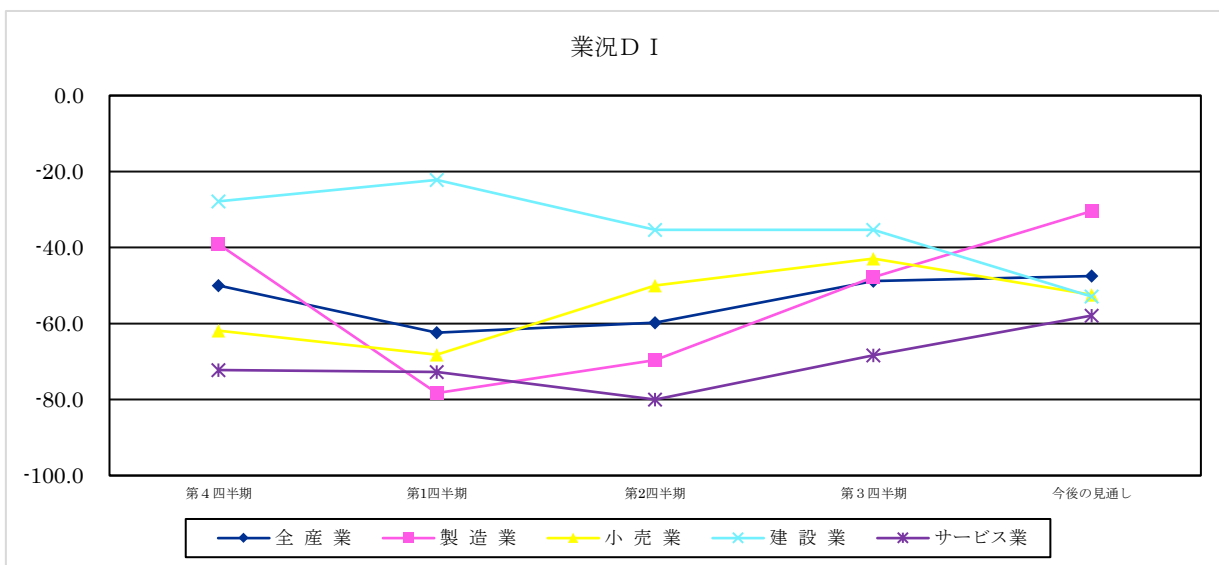
- ・ DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・ 強気、弱気等景況感の相対的な広がりの意味する。
- ・  $DI = (\text{増加} \cdot \text{好転} \cdot \text{不足等の回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化} \cdot \text{過剰等の回答割合})$

## II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲48.8と前回調査時(▲59.8)から11.0ポイントの回復。今後の見通しでは▲47.5(前回調査時▲43.9)と3.6ポイントの悪化。
- 製造業では、▲47.8ポイント(前回調査時▲69.6)と21.8ポイントの回復。今後の見通しも、▲30.4(前回調査時▲52.2)と21.8ポイント回復。
- 小売業では、▲42.9と前回調査時(▲50.0)より7.1ポイントの回復。今後の見通しは▲52.4(前回調査時▲45.5)より6.9ポイントの悪化。
- 建設業では、▲35.3と前回調査時(▲35.3)から横ばいで推移。今後の見通しは▲52.9と前回調査時(▲35.3)より17.6ポイントの悪化。
- サービス業では、▲68.4と前回調査時(▲80.0)から11.6ポイント回復。今後の見通しは▲57.9と前回調査時(▲40.0)より17.9ポイント悪化。

(1) 業況D Iの推移とキーワード

	平成31年度	令和2年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲50.0	▲62.4	▲59.8	▲48.8	▲47.5
製造業	▲39.1	▲78.3	▲69.6	▲47.8	▲30.4
小売業	▲61.9	▲68.2	▲50.0	▲42.9	▲52.4
建設業	▲27.8	▲22.2	▲35.3	▲35.3	▲52.9
サービス業	▲72.2	▲72.7	▲80.0	▲68.4	▲57.9



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	新型コロナウイルス	受注減	営業不足・自粛
小売業	新型コロナウイルス	客数減少	巣ごもり消費
建設業	新型コロナウイルス	住宅リフォーム	価格競争
サービス業	新型コロナウイルス	客数減少	値下げ要求

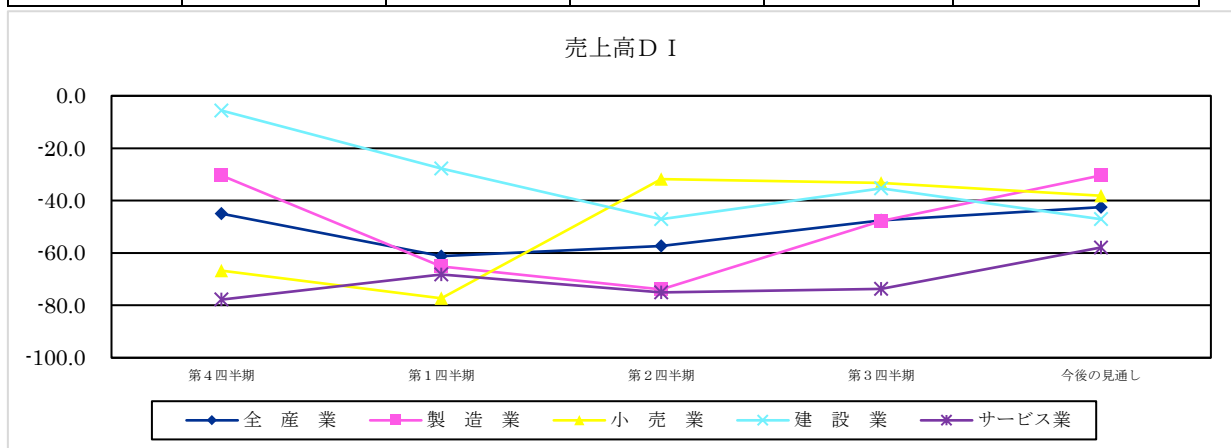
《全国との比較》

	令和2年度第3四半期		今後の見通し(1月~3月)	
	全国(12月)	日立	全国	日立
全産業	▲46.1	▲48.8	▲44.1	▲47.5
製造業	▲53.4	▲47.8	▲39.1	▲30.4
小売業	▲45.5	▲42.9	▲51.3	▲52.4
建設業	▲26.9	▲35.3	▲32.4	▲52.9
サービス業	▲53.0	▲68.4	▲50.7	▲57.9

(2) 売上高・採算・従業員の推移 (D I 値)

(売上高)

	平成 31 年度	令和 2 年度			
	第 4 四半期	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	今後の見通し (1~3 月)
全 産 業	▲ 45.0	▲ 61.2	▲ 57.3	▲ 47.5	▲ 42.5
製 造 業	▲ 30.4	▲ 65.2	▲ 73.9	▲ 47.8	▲ 30.4
小 売 業	▲ 66.7	▲ 77.3	▲ 31.8	▲ 33.3	▲ 38.1
建 設 業	▲ 5.6	▲ 27.8	▲ 47.1	▲ 35.3	▲ 47.1
サービス業	▲ 77.8	▲ 68.2	▲ 75.0	▲ 73.7	▲ 57.9



(採算)

	平成 31 年度	令和 2 年度			
	第 4 四半期	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	今後の見通し (1~3 月)
全 産 業	▲ 47.5	▲ 65.9	▲ 56.1	▲ 51.3	▲ 46.3
製 造 業	▲ 43.5	▲ 69.6	▲ 73.9	▲ 56.5	▲ 43.5
小 売 業	▲ 66.7	▲ 63.6	▲ 36.4	▲ 28.6	▲ 33.3
建 設 業	▲ 5.6	▲ 50.0	▲ 29.4	▲ 41.2	▲ 52.9
サービス業	▲ 72.2	▲ 77.3	▲ 80.0	▲ 78.9	▲ 57.9

(販売単価)

	平成 31 年度	令和 2 年度			
	第 4 四半期	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	今後の見通し (1~3 月)
全 産 業	▲ 11.3	▲ 13.0	▲ 13.4	▲ 13.8	12.5
製 造 業	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 8.7	▲ 4.4	▲ 8.7
小 売 業	▲ 23.8	▲ 4.5	▲ 18.2	▲ 19.0	9.5
建 設 業	0.0	▲ 16.7	0.0	5.9	5.9
サービス業	▲ 11.1	▲ 22.7	▲ 25.0	▲ 36.8	▲ 21.1

業 種	概 況
製 造 業	<p>業況感では回復を見たものの、実際には悪化から不変に転じた結果であることに注意が必要。先行きでも回復を見込むが、生産量が戻らないとの声は多い。全国的には業種による回復のばらつきによりほぼ横ばい。</p> <p>個別では、「冬の賞与としては、酒肴料程度の支給にせざるを得なかった（印刷業）」「少しずつ好転してきた（IT業）」「期待したりリニューアル事業の生産が1月以降、営業不足やオーナーの自粛、キャンセルにより落ち込み、新型コロナウイルスの影響がこれからも続く（電気機械器具製造業）」「一部取引先から値下げ依頼がある。新規案件の話がある。輸出品の数が戻らない（鉄鋼業）」「まだまだ売上が-20~-30%の状態が続いている。帰休5~8日（月）している。いつまで続くのか見当がつかない（鉄鋼業）」「電機業界全体として厳しいが、社会インフラが中心なので小幅な回復傾向にある（電気機械器具製造業）」「発注元の自家製作が増え、外注展開が少なくなっている。その影響で、加工外注先になっている事業所は作業減となる（電気機械器具製造業）」「しばらく受注量は低迷しそうだが、見積もりや問い合わせが徐々に増えてきている。夏場以降の回復に期待しています（金属製品製造業）」などの報告があった。</p>
小 売 業	<p>当地区では、食料品・日用品小売業、自動車小売業が堅調、衣料品での売上増で小幅の回復を見たが、先行きに不安感。全国的には、巣ごもり消費で飲食品日用品は堅調だが、高価格帯の衣料品の需要低迷により悪化。</p> <p>個別では、「消費の変化として、家庭の少人数の消費の進みがコロナの影響か、今年は特に進んでしまったように思える（食料品小売業）」「人の行動が制限され、菓子折りなどギフトが売れない。自家消費分は増加するもスーパー、コンビニと競合する（菓子製造小売業）」「新車の入荷が滞っている為、中古車の相場の価格が上がって仕入れが難しい（自動車小売業）」「アウトドアがさらに注目されてきた（自動車小売業）」「今年2月くらいから巣ごもり需要でスーパーは異常な売り上げを記録している為、来年は前年比を追いかけるのが非常に厳しい状況。また時限立法が終わるため、来年4月から原則として総額表示をベースに価格表記を見直す必要があり、現状が税抜表記の為その変更対応の準備に追われている（食品スーパー）」「原油の上昇等で石油製品の値上がりが続いている。国内の乗用車はHV・PHV等の低燃費車の代替が進んでおり、毎年消費量は減少している。10年後は現在の50%になる見通し（燃料小売業）」などの報告があった。</p>
建 設 業	<p>全国的には、災害復旧を含む公共工事は堅調に推移したものの、民間工事の低迷が続いてほぼ横ばい。当地区でも、依然厳しい状況に好転の回答はなく業況感は横ばい。先行きで悪化を見込む。</p> <p>個別では、「新年度予算に国土強靱化予算（3年間で15兆円）が計上されたことは、公共工事では明るい話題。コロナ禍により民間設備投資の冷え込みが厳しく、スーパーゼネコンが従来見向きもしなかった小規模工事に出てきており価格競争が激化。巣ごもり需要で住宅リフォームの問合せは活発だが、財布のひもは依然固い（総合建設業）」「工事の発注状況は夏以降順調に進んできて、前年並みに戻っている。今一番怖いのは新型コロナウイルスに感染することで、それによる休業や風評が不安材料である（総合建設業）」などの報告があった。</p>
サービスマ業	<p>当地区の業況感は依然として最も厳しい状況にある。今期も好転の回答は見られず。先行きへの不安感も強く悪化。全国的にはGo to事業の効果が表れ改善していたものの、一時停止となりキャンセル増加での業績悪化を懸念する声が多数聞かれた。</p> <p>個別では、「顧客物流が戻りきっていない状況が継続。家電関係については比較的堅調であるが、それ以外の製造業は先行き不透明。バス・タクシー等の交通事業部門は貸切バスの予約大幅減少、酒席自粛ムードの中でのタクシー利用大幅減少等この状況が継続すると非常に厳しい（物流業）」「荷物が減少傾向、地元大企業の業績悪化のためにもともと安い運賃の値下げ要求が出ている（物流業）」「高速バス、貸切バス、旅行等の大幅な売り上げ減。コロナ対策支援（雇用調整助成金等）の継続・拡大を要望（道路旅客運送業）」「宴席・婚礼が減少（ホテル業）」等の報告があった。</p>